

平成27年度嶺北地域アクションプランの追加、拡充、削除項目等について



平成27年度 嶺北地域アクションプラン項目対比表 (改定案)

【嶺北地域】

現在(平成26年度)		No				
No		本 山 町	大 山 町	大 壘 町	土 佐 町	大 川 村
1	れいほくブランドの園芸産地の維持	○	○	○	○	○
2	ユズ産地の確立と加工・販売の促進	○	○	○	○	○
3	集落営農で元気な地域づくり	○	○	○	○	○
4	米のブランド化による福作農業の展開	○				
5	(株)大豊ゆとりファームを核として地域資源の活用により地域産業を持続化させる取組					○
6	JIA出資型法人を核とする地域活性化の取組	○	○	○	○	○
7	直販所「本山さくら市」を核とした地域活性化の取組	○				
8	土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興	○	○	○	○	○
9	土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化					○
10	間伐の推進と素材生産の拡大	○	○	○	○	○
11	れいほくスケルトン(嶺北材の個別販売)の促進	○	○	○	○	○
12	県産材の地域における専先利用	○	○	○	○	○
13	木工製品の製造・販売による地域の活性化	○				
14	特用林産物(シキミ、サカキ)の拠点づくり	○	○	○	○	○
15	大型製材工場の設置による地域材の利用の促進	○	○	○	○	○
16	木質バイオマス利用拡大の取組	○	○	○	○	○
17	地域産品販売ポータルサイトによる商業展開・情報発信	○	○	○	○	○
18	土佐産直サテライトセンター(とさ千里(大阪))の活性化による地産外商の促進	○	○	○	○	○
19	嶺北地域の連携による交流人口の拡大	○	○	○	○	○
20	酒造等を活用した地域資源との連携による地域の活性化	○				
21	白壁山・工石山を活用した交流人口の拡大による地域活性化の取組					○
22	早明浦ダムを活用した交流人口の拡大による地域活性化の取組					○
23	柳田を活用した観光・交流人口の拡大による地域活性化の取組					○
24	滞在型市民農園の推進による地域の活性化	○				
25	嶺北地域の連携による移住促進の取組	○	○	○	○	○
26	小水力発電の導入による地域活性化の取組	○	○	○	○	○
27	地域内高校と連携した習来の担い手育成に関する取組	○	○	○	○	○
28	集落活動センター「芥見川」が実施する交流人口拡大事業と特産品づくりによる地域活性化の取組	○				

改定案(平成27年度)		No				
No		本 山 町	大 山 町	大 壘 町	土 佐 町	大 川 村
1	れいほくブランドの園芸産地の維持	○	○	○	○	○
2	ユズ産地の確立と加工・販売の促進	○	○	○	○	○
3	集落営農で元気な地域づくり	○	○	○	○	○
4	米のブランド化による福作農業の展開	○				
5	(株)大豊ゆとりファームを核として地域資源の活用により地域産業を持続化させる取組					○
6	JIA出資型法人を核とする地域活性化の取組	○	○	○	○	○
7	直販所「本山さくら市」を核とした地域活性化の取組	○				
8	土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興	○	○	○	○	○
9	土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化					○
10	間伐の推進と素材生産の拡大	○	○	○	○	○
11	れいほくスケルトン(嶺北材の個別販売)の促進	○	○	○	○	○
12	県産材の地域における専先利用	○	○	○	○	○
13	木工製品の製造・販売による地域の活性化	○				
14	特用林産物(シキミ、サカキ)の拠点づくり	○	○	○	○	○
15	大型製材工場の設置による地域材の利用の促進	○	○	○	○	○
16	木質バイオマス利用拡大の取組	○	○	○	○	○
17	地域産品販売ポータルサイトによる商業展開・情報発信	○	○	○	○	○
18	土佐産直サテライトセンター(とさ千里(大阪))の活性化による地産外商の促進	○	○	○	○	○
19	嶺北地域の連携による交流人口の拡大	○	○	○	○	○
20	酒造等を活用した地域資源との連携による地域の活性化	○				
21	白壁山・工石山を活用した交流人口の拡大による地域活性化の取組					○
22	早明浦ダムを活用した交流人口の拡大による地域活性化の取組					○
23	柳田を活用した観光・交流人口の拡大による地域活性化の取組					○
24	滞在型市民農園の推進による地域の活性化	○				
25	嶺北地域の連携による移住促進の取組	○	○	○	○	○
26	小水力発電の導入による地域活性化の取組	○	○	○	○	○
27	地域内高校と連携した習来の担い手育成に関する取組	○	○	○	○	○
28	集落活動センター「芥見川」が実施する交流人口拡大事業と特産品づくりによる地域活性化の取組	○				

拡充

嶺北地域アクションプランの追加・削除・拡充等（予定項目）

■拡充

NO.	アクションプラン名	事業概要
10	間伐の推進と素材生産の拡大(大豊町) 【実施主体】大豊町森林組合	【拡充】原木の増産に向けて森林組合が経営するストックヤード施設を建設し町が支援を行う。

修正項目(案)

【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
8 土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興  (本山町、土佐町、大豊町)	土佐あかうしの産地を守り、地域の畜産振興を図るため、飼養者の競争力を確保するとともに、土佐あかうしの生産基地化を図る。また、繁殖・肥育の一貫経営を行い、生産と食肉加工から販売に至る畜産の6次産業化に向けた取組を進める。	・JA土佐れいほく ・(株)れいほく未来 ・飼養者 ・本山町 ・土佐町 ・大豊町	・放牧場用地の選定(H21~23) ・簡易放牧場の設置(H22) ◆平成24年度には放牧を実施したが、継続して放牧場を確保できなかったことから、土佐あかうしの増頭や新たな雇用につながらなかった。一方、嶺北地域では、土佐あかうしの未来を担う産地事業が始まり、繁殖雌牛150頭・肥育牛250頭規模の畜舎建設が進んでいる。また、個人でも「レンタル畜舎等施設整備事業」による畜舎整備計画があり、土佐あかうし増頭の取組が進行している。	・放牧地の土地の確保や畜舎等(付帯施設)の整備 ・畜産農家の減少による放牧整備後の運営	◆飼養者の競争力を確保するための取組          ◆生産基地の整備と6次産業化に向けた取組

修正前



【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
8 土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興  (本山町、土佐町、大豊町)	土佐あかうしの産地を守り、地域の畜産振興を図るため、飼養者の競争力を確保するとともに、土佐あかうしの生産基地化を図る。また、繁殖・肥育の一貫経営を行い、生産と食肉加工から販売に至る畜産の6次産業化に向けた取組を進める。	・JA土佐れいほく ・(株)れいほく未来 ・飼養者 ・本山町 ・土佐町 ・大豊町	・放牧場用地の選定(H21~) ・簡易放牧場の設置(H22) ◆平成24年度には放牧を実施したが、継続して放牧場を確保できなかったことから、土佐あかうしの増頭や新たな雇用につながらなかった。一方、嶺北地域では、土佐あかうしの未来を担う産地事業が始まり、繁殖雌牛150頭・肥育牛250頭規模の畜舎建設が進んでいる。また、個人でも「レンタル畜舎等施設整備事業」による畜舎整備計画があり、土佐あかうし増頭の取組が進行している。	・放牧地の土地の確保や畜舎等(付帯施設)の整備 ・畜産農家の減少による放牧整備後の運営	◆飼養者の競争力を確保するための取組          ◆生産基地の整備と6次産業化に向けた取組

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
飼養者の競争力を確保するための取組					土佐あかうしの販売額 (H19:2億円) (H22:1.9億円)	
公営放牧場の用地の確保			牧場の整備	管理畜舎の整備、放牧の開始		
牛肉の加工品の開発・商品化						
生産基地の整備と6次産業化に向けた取組						
肥育畜舎及び付帯施設の整備		繁殖畜舎の整備	食肉加工施設の整備	食肉の販売開拓		
担い手の確保・育成(研修生の受け入れ)						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
飼養者の競争力を確保するための取組					土佐あかうしの販売額 (H19:2億円) (H22:1.9億円)	
公営放牧場の用地の確保			牧場の整備	管理畜舎の整備、放牧の開始		
牛肉の加工品の開発・商品化						
生産基地の整備と6次産業化に向けた取組						
肥育畜舎及び付帯施設の整備		繁殖畜舎の整備	食肉加工施設の整備	食肉の販売開拓		
担い手の確保・育成(研修生の受け入れ)						

修正項目(案)

【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	
				課題	主な内容
9 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化 【大川村】	大川村の基幹産業である畜産の振興により地域の活性化を図り、雇用の確保、所得の向上につなげる。	(株)むらびと本舗 ・大川村	<b>&lt;大川黒牛&gt;</b> ・繁殖雌牛の保留・更新(H21~23) ・新たな事業主体による事業継続(H23~) ◆平成21~23年度に大川村の支援を受けて繁殖雌牛の更新(若返り)を一部行い54頭に増頭したが、新たな雇用には至っていない。また、大川村和牛生産組合は平成23年3月末で解散し、4月より(株)むらびと本舗が経営と生産を引き継ぎ雇用を維持したが、肉用牛事業については、増頭も含めた経営の安定化に努める必要がある。  <b>&lt;土佐はちきん地鶏&gt;</b> ・生産施設の整備(H21~25) ・販売促進活動(H21~25) ◆10万羽の生産施設の整備は平成22年度に完了し、新たな雇用が生まれるなどの効果が認められた。一方、施設整備や施設の改築を行いつつ短期間に生産羽数を伸ばしたことなどから、職員の飼養管理技術が追いつかず育成率、飼料効率等が低下し収益を下げている。	<b>&lt;大川黒牛&gt;</b> ・繁殖雌牛の高齢化 ・繁殖雌牛の導入及び育成経費の確保 ・肥育牛の増頭  <b>&lt;土佐はちきん地鶏&gt;</b> ・飼養管理技術の習得 ・出荷体制の改善 ・生産原価の上昇	<b>&lt;大川黒牛&gt;</b> ◆更新牛の増頭 繁殖雌牛の導入  <b>&lt;土佐はちきん地鶏&gt;</b> ◆飼養管理技術の向上及び食鳥処理施設の整備

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<大川黒牛>更新牛の増頭、繁殖雌牛の導入 繁殖雌牛の自家更新・外部導入(45頭(H23)→75頭(H27))					黒牛の販売額 (H19:7.0千万円) (H22:6.5千万円)	8.2千万円
<土佐はちきん地鶏>飼養管理技術の向上及び食鳥処理施設の整備 中期事業計画の実施(経営改善、体制改善、販路拡大等) 次期中期事業計画の策定 次期中期事業計画の実施					出荷羽数 (H19:1万羽) (H22:5.1万羽)	10万羽
飼養管理技術の向上(先進事例の視察、研修会の実施等)						
食鳥処理・加工施設の検討						
食鳥処理・加工施設の整備						
はちきん地鶏の販路開拓、加工品の開発・販路開拓						
村内農家への普及と飼育開始						



【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	
				課題	主な内容
9 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化 【大川村】	大川村の基幹産業である畜産の振興により地域の活性化を図り、雇用の確保、所得の向上につなげる。	(株)むらびと本舗 ・大川村	<b>&lt;大川黒牛&gt;</b> ・繁殖雌牛の保留・更新(H21~23) ・新たな事業主体による事業継続(H23~) ◆平成21~23年度に大川村の支援を受けて繁殖雌牛の更新(若返り)を一部行い54頭に増頭した。年間出荷羽数70頭を目標し、繁殖雌牛一貫経営へ移行するよう施設等整備計画を策定。  <b>&lt;土佐はちきん地鶏&gt;</b> ・生産施設の整備(H21~26) ・販売促進活動(H21~26) ◆10万羽の生産施設の整備は平成22年度に完了し、新たな雇用が生まれるなどの効果が認められた。一方、施設整備や施設の改築を行いつつ短期間に生産羽数を伸ばしたことなどから、職員の飼養管理技術が追いつかず育成率、飼料効率等が低下し収益を下げている。大川村プロジェクトの定期開催による生産体制の改善と収益性確保の取り組みを開始した。	<b>&lt;大川黒牛&gt;</b> ・繁殖雌牛の高齢化 ・繁殖雌牛の導入及び育成経費の確保 ・肥育牛の増頭  <b>&lt;土佐はちきん地鶏&gt;</b> ・飼養管理技術の習得 ・出荷体制の改善 ・生産原価の上昇 ・収益性確保のための種別体制及び施設整備	<b>&lt;大川黒牛&gt;</b> ◆更新牛の増頭 繁殖雌牛の導入 70頭出荷体制の構築(繁殖雌牛一貫経営)  <b>&lt;土佐はちきん地鶏&gt;</b> ◆飼養管理技術の向上及び食鳥処理施設の整備並びに販売促進

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<大川黒牛>更新牛の増頭、繁殖雌牛の導入、70頭出荷体制の構築(繁殖雌牛一貫経営) 繁殖雌牛の自家更新・外部導入(45頭(H23)→75頭(H27))					黒牛の販売額 (H19:7.0千万円) (H22:6.5千万円)	8.2千万円
<土佐はちきん地鶏>飼養管理技術の向上及び食鳥処理施設の整備並びに販売促進 中期事業計画の実施(経営改善、体制改善、販路拡大等) 生食等施設整備 太川村プロジェクトの推進 資金等施設整備					出荷羽数 (H19:1万羽) (H22:5.1万羽)	10万羽
飼養管理技術の向上(先進事例の視察、研修会の実施等)						
食鳥処理・加工施設の検討						
食鳥処理・加工施設の整備						
はちきん地鶏の販路開拓、加工品の開発・販路開拓						
村内農家への普及と飼育開始						

修正項目(案)

【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
10 間伐の推進と素材生産の拡大 《嶺北地域全域》	嶺北地域の豊かな森林資源を活かし、生産者の経営の安定化を図るとともに、地域に計画されている大型製材工場への木材の安定供給に寄与するため、木材の増産に取り組む。	・森林所有者 ・森林組合 ・素材生産事業者 ・自伐林家	・森の工場の推進(H21~25) ・林業事業者の育成(H21~25) ・林業の担い手の育成確保(H21~25) ・放置林の解消(H21~25) ◆林業の担い手の減少や木材価格の低迷などにより第1期計画では平成23年度末の目標に達しなかったが、森の工場に新たな事業者の参入があり、森林整備の更なる推進が期待される。	・森の工場の推進 ・事業者の育成 ・担い手の育成確保 ・放置林の解消	◆間伐・皆伐の推進による木材増産         ◆再造林の推進

第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
間伐・皆伐の推進による木材増産					▶	素材生産量 (H19:76,404m <sup>3</sup> ) (H22:56,464m <sup>3</sup> )	150,000m <sup>3</sup>
森の工場の推進、林業事業者の育成、林業の担い手の育成確保							
原木の増産体制の強化(皆伐の推進)							
原木市場の整備(本山市)	原木の流通体制の強化						
▶							
再造林の推進					▶		
再造林の補助制度を活用した伐採跡地の更新							



【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
10 間伐の推進と素材生産の拡大 《嶺北地域全域》	嶺北地域の豊かな森林資源を活かし、生産者の経営の安定化を図るとともに、地域に計画されている大型製材工場への木材の安定供給に寄与するため、木材の増産に取り組む。	・森林所有者 ・森林組合 ・素材生産事業者 ・自伐林家	・森の工場の推進(H21~26) ・林業事業者の育成(H21~26) ・林業の担い手の育成確保(H21~26) ・放置林の解消(H21~26) ◆林業の担い手の減少や木材価格の低迷などにより第1期計画では平成23年度末の目標に達しなかったが、森の工場に新たな事業者の参入があり、森林整備の更なる推進が期待される。	・森の工場の推進 ・事業者の育成 ・担い手の育成確保 ・放置林の解消 ・原木の安定供給体制の構築	◆間伐・皆伐の推進による木材増産         ◆再造林の推進    ◆ストックヤードの整備による原木の供給体制づくり

第2期計画					指標及び目標		
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)	
間伐・皆伐の推進による木材増産					▶	素材生産量 (H19:76,404m <sup>3</sup> ) (H22:56,464m <sup>3</sup> )	150,000m <sup>3</sup>
森の工場の推進、林業事業者の育成、林業の担い手の育成確保							
原木の増産体制の強化(皆伐の推進)							
原木市場の整備(本山市)	原木の流通体制の強化						
▶							
再造林の推進					▶		
再造林の補助制度を活用した伐採跡地の更新							
▶							
ストックヤードの整備による原木の供給体制づくり							
測量・林地調査(大井町)	造成工事(大井町)		ストックヤード施設整備(大井町)				

修正項目(案)

【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
15 大型製材工場の設置による地域材の利用の促進 《嶺北地域全域》	大型製材工場の誘致により地域材の利用を促進し、林業従事者の増加や所得の向上、事業体による雇用の促進へとつなげる。	・高知おおとよ製材(株) ・大豊町	・大型製材工場の誘致(H21~23) ◆誘致先企業と具体的な誘致交渉の結果、平成23年9月に大豊町への進出協定の締結が実現した。 (H24.25) ◆造成工事等を経て平成25年8月操業開始した。	・原木の供給体制づくり	◆大型製材工場の設置  ◆原木の供給体制づくり

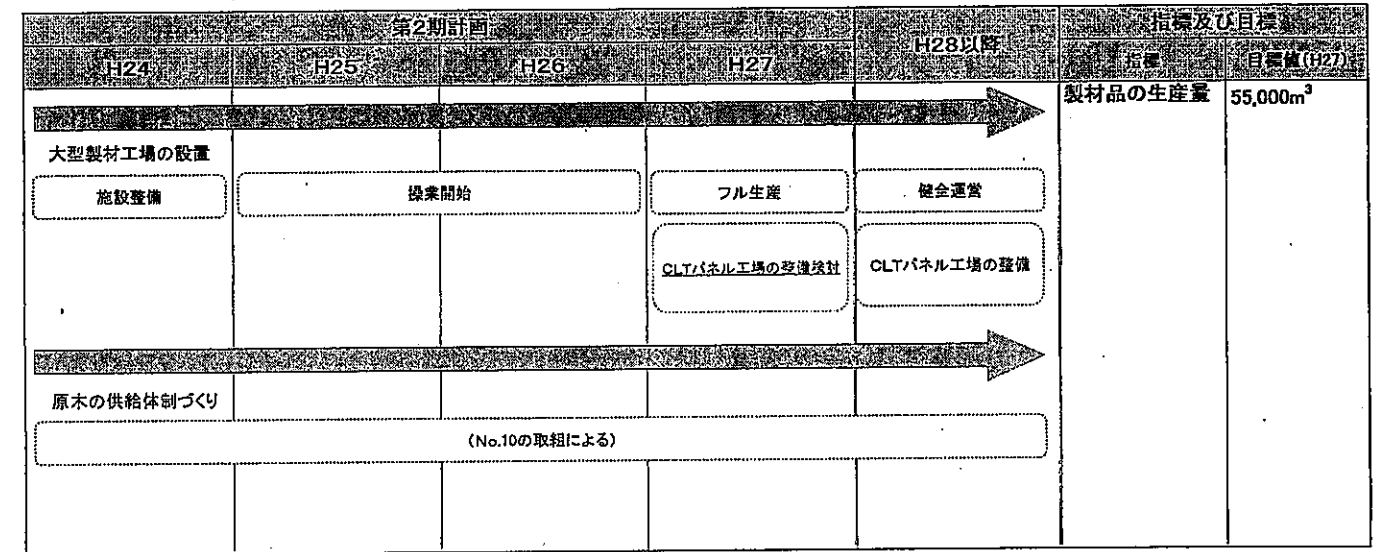
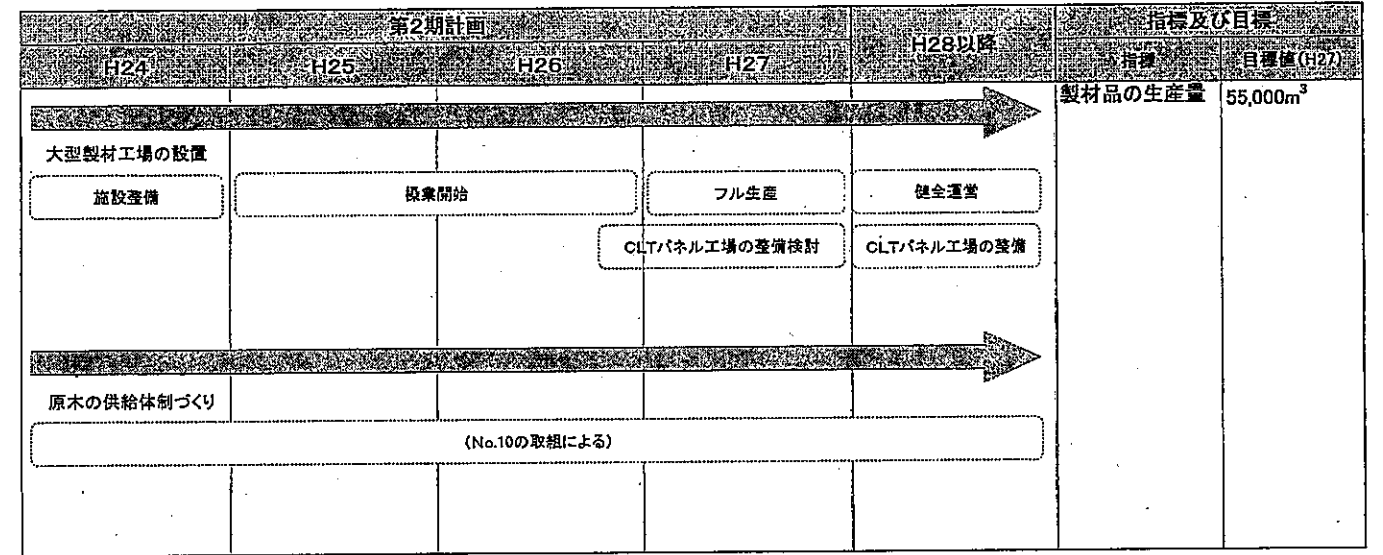
修正前



【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
15 大型製材工場の設置による地域材の利用の促進 《嶺北地域全域》	大型製材工場の誘致により地域材の利用を促進し、林業従事者の増加や所得の向上、事業体による雇用の促進へとつなげる。	・高知おおとよ製材(株) ・大豊町	・大型製材工場の誘致(H21~23) ◆誘致先企業と具体的な誘致交渉の結果、平成23年9月に大豊町への進出協定の締結が実現した。 (H24.25) ◆造成工事等を経て平成25年8月操業開始した。	・原木の供給体制づくり	◆大型製材工場の設置  ◆原木の供給体制づくり

修正後





修正項目(案)

【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
16 木質バイオマス利用拡大の取組 《嶺北地域全域》	木質バイオマスの利用拡大と林業の活性化を図る。	・民間事業者 ・本山市 ・大豊町 ・土佐町 ・大川村	・加工施設の設置・事業展開(H23) ・木質バイオマスボイラー等の導入設置(H22~25) ◆木質バイオマス利用施設の導入により、木質資源の利活用が促進された。また、工場残材の有効利用により、燃料コスト削減が成果として見え始めている。 一方、木質バイオマス加工施設が建設されたことにより、地域内の未利用間伐材(林地残材)の利活用が促進されてきている。	・原木(C材)の安定供給体制の構築 ・木質バイオマスの利用拡大	◆原木(C材)の安定供給  ◆木質バイオマス発電施設等の導入検討

修正前



【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
16 木質バイオマス利用拡大の取組 《嶺北地域全域》	木質バイオマスの利用拡大と林業の活性化を図る。	・民間事業者 ・本山市 ・大豊町 ・土佐町 ・大川村	・加工施設の設置・事業展開(H23) ・木質バイオマスボイラー等の導入設置(H22~26) ◆木質バイオマス利用施設の導入により、木質資源の利活用が促進された。また、工場残材の有効利用により、燃料コスト削減が成果として見え始めている。 一方、木質バイオマス加工施設が建設されたことにより、地域内の未利用間伐材(林地残材)の利活用が促進されてきている。	・原木(C材)の安定供給体制の構築 ・木質バイオマスの利用拡大	◆原木(C材)の安定供給  ◆木質バイオマス発電施設等の導入検討

修正後

第2期計画					指標及び目標
H24	H25	H26	H27	H28以降	
					テップ材の取扱量 2,500t 指標 目標値(H27)
林地残材等の活用に向けた「木の駅プロジェクト」等による仕組みづくり(本山市、土佐町、大川村)		林地残材等の活用に向けた「木の駅プロジェクト」等による実践活動(本山市、土佐町、大川村)			
木質バイオマス発電施設等の導入に向けた調査・検討(大豊町)		木質バイオマス発電施設等の整備(大豊町)		木質バイオマス発電施設等の稼働(大豊町)	



第2期計画					指標及び目標
H24	H25	H26	H27	H28以降	
					テップ材の取扱量 2,500t 指標 目標値(H27)
林地残材等の活用に向けた「木の駅プロジェクト」等による仕組みづくり(本山市、土佐町、大川村)		林地残材等の活用に向けた「木の駅プロジェクト」等による実践活動(本山市、土佐町、大川村)			
木質バイオマス発電施設等の導入に向けた調査・検討(大豊町)		木質バイオマス発電施設等の整備(大豊町)		木質バイオマス発電施設等の稼働(大豊町)	



修正項目(案)

【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
23 棚田を活用した観光・交流人口の拡大による地域活性化の取組 【土佐町】	土佐町の地域資源である「棚田」を活用し、体験ツアー実施や農家民宿・農家レストランの開設、オーナー制度の創設等により、観光交流人口の拡大を図る。併せて、棚田の名所である瀬井部落の農業用水沿いの道を「セラピーロード」として整備し、土佐町への新たな誘客を図る。	(株)れいほく未来 ・NPO法人土佐さめうら観光協会 ・(株)とさ千里 ・土佐町	・モニターツアーの実施(田植え、稲刈り、餅つき、山菜採り等) ・視察研修(津野町、穂原町、鳥取県智頭町、鳥取県飯南町など) ・料理講習会の開催 ・セラピーロードのモニター  ◆瀬井部落振興協議会が中心となり、平成24年度は農水省「食と地域の交流促進事業」、平成25年度は同「都市農村共生・対流交付金事業」を活用して、棚田資源の活用及びセラピーロード開設に向け、試行事業等が実施された。	・事業受入主体の確立 ・集落住民の合意形成 ・周辺集落や関係機関との連携  ・セラピーロードの認証を受けるための費用が高額	◆棚田を活用した「田植えツアー」及び「稲刈りツアー」等の実施  ◆農家民宿・農家レストラン等の開設及び棚田オーナー制度の創設に向けた検討  ◆セラピーロードの整備



【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
23 棚田を活用した観光・交流人口の拡大による地域活性化の取組 【土佐町】	土佐町の地域資源である「棚田」を活用し、体験ツアー実施や農家民宿・農家レストランの開設、オーナー制度の創設等により、観光交流人口の拡大を図る。併せて、棚田の名所である瀬井部落の農業用水沿いの道を「セラピーロード」として整備し、土佐町への新たな誘客を図る。	(株)れいほく未来 ・NPO法人土佐さめうら観光協会 ・(株)とさ千里 ・土佐町	・モニターツアーの実施(田植え、稲刈り、餅つき、山菜採り等) ・視察研修(津野町、穂原町、鳥取県智頭町、鳥取県飯南町など) ・料理講習会の開催 ・セラピーロードのモニター  ◆瀬井部落振興協議会が中心となり、平成24年度は農水省「食と地域の交流促進事業」、平成25年度は同「都市農村共生・対流交付金事業」を活用して、棚田資源の活用及びセラピーロード開設に向け、試行事業等が実施された。  ・平成26年度には嶺北地域観光交流推進協議会と連携し、県外大学生等の民泊受入や、社会福祉協議会と連携した「歩育ツアー」の実施した。  ◆専業主体の確立は、NPO土佐さめうら観光協会を中心に検討が続けられている。  ◆セラピーロードの整備、農家レストランの開設等については、設け面の狭さや実施主体(農家民宿のため、農家は足場が狭い)などの課題のため、具体的な進捗に乏しい面がある。民泊受入時のロード利用や食料提供等を適じ、模索を続けている。	・事業受入主体の確立 ・集落住民の合意形成 ・周辺集落や関係機関との連携  ・セラピーロードの認証を受けるための費用が高額	◆棚田を活用した「田植えツアー」及び「稲刈りツアー」等の実施  ◆農家民宿・農家レストラン等の開設及び棚田オーナー制度の創設に向けた検討  ◆セラピーロードの整備

修正後

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
棚田を活用した「田植えツアー」及び「稲刈りツアー」等の実施					受入活動取組団体数	
モニターツアーの実施・磨き上げ	体験ツアーの実施、メニューの開発及び充実化	事業の本格実施				3団体
地域の事業実施主体の盛り直し						
農家民宿・農家レストラン等の開設及び棚田オーナー制度の創設に向けた検討						
研修会等の開催及び先進地視察	試行的事業実施	事業の本格実施				
地域における実施体制の検討						
セラピーロードの整備						
セラピーロード認証に向けた環境整備等			セラピーロードを活用した観光・交流の取組			
地域住民との話し合い		セラピーロードの運用開始				
環境等の整備	事業実施主体の明確化	全団体の認証取得				
モニターツアーの実施・ガイド養成による資源の磨き上げ						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
棚田を活用した「田植えツアー」及び「稲刈りツアー」等の実施					受入活動取組団体数	
モニターツアーの実施・磨き上げ	体験ツアーの実施、メニューの開発及び充実化	事業の本格実施				3団体
地域の事業実施主体の盛り直し						
農家民宿・農家レストラン等の開設及び棚田オーナー制度の創設に向けた検討						
研修会等の開催及び先進地視察	試行的事業実施	事業の本格実施				
地域における実施体制の検討						
セラピーロードの整備						
セラピーロード認証に向けた環境整備等			セラピーロードを活用した観光・交流の取組			
地域住民との話し合い		セラピーロードの運用開始				
環境等の整備	事業実施主体の明確化	全団体の認証取得				
モニターツアーの実施・ガイド養成による資源の磨き上げ						

